

平成30年度
第2回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

1 日 時	平成30年8月9日(木) 10時00分～12時00分
2 場 所	教育委員会室
3 議 題	(1) 第1回さいたま市教育行政点検評価委員会の結果について (2) 各施策についての点検・評価
4 資 料	次第、座席表、出席者名簿、第1回さいたま市教育行政点検評価委員会の結果について、点検評価委員会審査日程、平成30年度教育委員会の点検・評価報告書(案)、平成29年度教育行政方針
5 出 席 者	細淵富夫委員長、朝日洋子委員、青羽章仁委員 (関係所管出席者) 澤田教職員人事課長、吉田指導1課長、内河特別支援教育室長、田邊指導2課長、藤澤総合教育相談室長、千葉教育研究所長、高後館岩少年自然の家所長 (事務局) 野津教育政策室長、竹内教育政策室長補佐、瀧山教育政策室主幹、西川教育政策室主査
6 欠 席 者	0人
7 議 事	<p>※会議を非公開とはしないことを決定した。傍聴者なし。</p> <p>議題(1) 第1回さいたま市教育行政点検評価委員会の結果について 事務局から、第1回さいたま市教育行政点検評価委員会の結果について説明後、各委員へ内容等に誤りがないか確認を求めた。 ※意見なし 事務局の原案のとおり、了承された。</p> <p>議題(2) 各施策についての点検・評価 平成30年度教育委員会の点検・評価報告書「Ⅲ 点検・評価の結果(平成29年度事業対象)」において、「社会を生き抜く力をはぐくみ、多様な個性が活かされる教育の推進」のうち、「1 生きる力の確実な育成」の15事業について、各所管課から説明を行い、各委員へ意見を求めた。</p> <p>【説明】 [Ⅲ 点検・評価の結果(平成29年度事業対象)] <社会を生き抜く力をはぐくみ、多様な個性が活かされる教育の推進> 1 生きる力の確実な育成 (1) 主な事業の取組と成果・課題 ①全国学力・学習状況調査、さいたま市学習状況調査の活用 ②確かな学力の育成 ③スクールアシスタント配置事業の充実</p>

平成30年度
第2回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

- ④小・中一貫教育の推進
- ⑤道徳教育の推進
- ⑥子どもたちの体力向上に向けた施策の推進
- ⑦いじめ防止対策の推進
- ⑧心のサポート体制の充実
- ⑨特別支援教育の充実
- ⑩教員の資質能力の向上
- ⑪学校への訪問指導の充実
- ⑫さいたま教育コラボレーション構想の推進
- ⑬自然体験活動の充実
- ⑭学校図書館の充実
- ⑮ICT教育の充実

(2) 教育委員会の自己評価 (教育政策室)

【主な意見及び質疑】

①全国学力・学習状況調査、さいたま市学習状況調査の活用

(細淵委員長)

・調査結果について、分析はどのように行っているのか。

(教育研究所)

・市全体のみならず区毎など、様々な角度で分析を行っている。160校が、それぞれの実態に合った学力向上策を進めていきたいと考えている。

②確かな学力の育成

なし

③スクールアシスタント配置事業の充実

(朝日委員)

・特別な配慮を要する児童生徒がいる通常学級だと、スクールアシスタントを見かけることが多いが、発達段階などに応じて、更なる支援の重要性を感じる。スクールアシスタントの配置によって、配慮を要する子どものみならず、同じ学級の他の子どもたちにも、教育的な効果があるように感じられる。非常に成果が上がっているように思われるので、本事業の更なる充実を期待している。

(青羽委員)

・本事業により、学習等で非常に助かっているという声を多く聞いている。今後は連携が重要だと思われる。特に、中学校においては教科担任制ということもあるので、担任や教科担任とスクールアシスタントの連携を図ってほしい。

(細淵委員長)

・スクールアシスタントの応募状況は。

平成30年度
第2回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

(教職員人事課)

・毎年、教員免許所持者を対象に、選考を行っている。定員に対して、それより少し上回る程度の応募がある。

(細渕委員長)

・スクールアシスタントに対して、やってみてどうだったか、という調査を行っているか。

(教職員人事課)

・スクールアシスタントに対しては行っていない。
・学校や児童生徒、保護者に対するアンケートからは、非常にやりがいをもって職務に当たっている状況がうかがえる。8割以上から、よく勉強が分かる、など良好な回答が得られた。

(細渕委員長)

・教職員がスクールアシスタントをどのように活用していくか、情報提供等がなされているか。

(教職員人事課)

・各学校からの要望に応じて配置しており、学校の実情に応じ、校長の裁量で様々な活用している状況である。平成29年度は、少人数指導163名、学級等支援162名、特別支援学級94名、通級指導52名、要配慮児童生徒の支援112名。

④小・中一貫教育の推進

なし

⑤道徳教育の推進

(青羽委員)

・昨年度は教科化に伴い、評価方法等について関心が高かったように思われるが、今後も、道徳教育に注力してほしい。

⑥子どもたちの体力向上に向けた施策の推進

(青羽委員)

・体力向上については、学力向上と同様に力を入れて取り組んでいることが分かった。中学生は、部活動との関連などもあると思うが、今後も分析を行ってほしい。

⑦いじめ防止対策の推進

(青羽委員)

・子どもたちの意識が高まってきているのはとても良い。回を重ねてくると、特に保護者などは、会議を開催していることは認識していても受け止め方に変化が生じているのではないかと。各学校で、保護者への周知方法などに差があるように思われるので、工夫が必要だと思われる。また、先生方にも、この取組から得られた成果を活用し、

平成30年度
第2回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

一見いじめと分かりにくいケースもあると思うので、そのようなケースについても、しっかりと見極め、きめ細かな対応をしてほしい。

(朝日委員)

・シンポジウムに参加した児童生徒が感じるだけで終わるのではなく、参加した感想を、各学校の集会等で伝えるなど、共有する活動を積極的に行ってほしい。

⑧心のサポート体制の充実

(青羽委員)

・人事異動などで指導の方向性が変わらないように、さわやか相談員と保護者、学校が、指導の方向性を確認しながら、児童生徒の支援に携わってほしい。

(朝日委員)

・なかなか自分から相談できない子どもに対して、どのように相談したらよいか、どこに相談したらよいか、などを分かりやすく伝えてほしい。周知の方法を充実させてほしい。

(細淵委員長)

・相談スキルなどを教える授業については、どのように実施しているのか。

(総合教育相談室)

・授業の内容などカリキュラムを教育委員会で作成し、各学校に周知しているところ。小学校5年から中学校3年までの全ての学級で、この授業に取り組んでいる。

(細淵委員長)

・スクールソーシャルワーカーについて、大変ニーズが高かったようだが、どのような人物が担当しているのか。

(総合教育相談室)

・精神保健福祉士等を採用している。学校への派遣は28年度からの実施。

(細淵委員長)

・スクールソーシャルワーカーが一堂に会する研修などはあるのか。

(総合教育相談室)

・ある。研修会を実施している。

(青羽委員)

・スクールソーシャルワーカーにより、今までなかったような事例はあったか。

(総合教育相談室)

・スクールカウンセラーは子どもの悩みに寄り添って相談に乗ってきたが、スクールソーシャルワーカーは、子どもが抱える課題の背景に着目し、家庭そのものに働きかけることによって子どもの悩みが解消できるケースがあり、それらに対応できるようになった。例えば、スクールソーシャルワーカーが保護者と一緒に、区の支援課に行ったケースもあった。これまで、さわやか相談員やスクールカウンセラーがなかなか介入できなかった家庭に関する内容にも、寄り添って対応できるケースが増えた。スクールソーシャルワーカーの役割を学校に周知することが28年度の課題であったが、

平成30年度
第2回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

学校にスクールソーシャルワーカーの役割を周知するとともに、スクールソーシャルワーカーに、学校の文化を伝えていくような研修をすることで、スクールソーシャルワーカーの実効性が高まった。

(朝日委員)

・先生方だけではなかなか家庭内のことに立ち入ることができない部分もあったと思うので、とても良い取組である。

⑨特別支援教育の充実

(青羽委員)

・特別支援学級の設置率が高まり、PTAとしても、保護者同士の連携が各学校で課題となってきたので取り組んでいきたいと考えている。

⑩教員の資質能力の向上

(青羽委員)

・研修への取組状況を見ると、熱心に参加される先生が多く、安心できる場所である。今後も、子どもたちが「先生になりたい」と思えるように、資質能力の向上に努めてほしい。

⑪学校への訪問指導の充実

なし

⑫さいたま教育コラボレーション構想の推進

(青羽委員)

・アシスタントティーチャーについて、将来的に教員になったときの指導力向上や資質向上につながる取組だと思われる。子どもたちに聞くと、アシスタントティーチャーの存在は新鮮で、学校に通う楽しさにつながっているようで、とても良い。

⑬自然体験活動の充実

(青羽委員)

・館岩少年自然の家の新館もオープンしたので、ますます自然体験活動の充実が図られるよう、運営して行ってほしい。

⑭学校図書館の充実

(朝日委員)

・子どもたちの不読率が0%にならないことが大変残念。

(指導1課)

・朝読書は多くの学校で実施しているが、学校以外での読書、というようにとらえてアンケートに回答しているケースも考えられるため、調査方法(質問の分かりやすさ)

平成30年度
第2回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

も検討する必要があると考えられる。

(青羽委員)

・中学生の方が、不読率が高まるように感じられる。

(朝日委員)

・夏休み前などにある本のチラシなどの配布は、家庭で子どもたちに働きかけるのに有効だと感じる。

(青羽委員)

・中学生になると、受験を意識し、読書よりも学習に対しての声掛けが家庭では多くなりがちだが、読書の大切さも伝えていく必要がある。

(細渕委員長)

・N I E教育の推進にも通じるところだが、読む力を身に付けていくことはとても重要である。「読む・考える・議論する」という機会を増やしていく必要がある。読書のように読む活動により身に付く力がある一方で、議論することにより自分の考えをより確かなものにしたたり、深めたりすることも大切である。議論する場をどのように設定するか、読書活動においても適切に位置付けていく必要がある。ただ読むのではなく、他者の思いや気持ちを理解しながら、自分の考えを構築していくことも重要である。

⑮ I C T教育の充実

(青羽委員)

・子どもたちのI C T活用能力はどのようなものか。

(教育研究所)

・子どもたちは意欲的に活用している。説明しなくとも、どんどん使っていく様子が見られる。

(細渕委員長)

・I C T活用能力の回答項目に「わりにできる」という表現があるが。

(教育研究所)

・文部科学省で作成している項目である。

<閉 会> 12時00分閉会

【問合せ先】教育委員会事務局管理部教育政策室 829-1626